

国立国語研究所学術情報リポジトリ

平成15年度日本語教育研究プロジェクトコース

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/1908

平成15年度日本語教育研究プロジェクトコース

1. 目的

本コースは、日本語教育に携わる現職者を対象として、日本語教育の改善のために、社会的文脈において日本語教育を位置付けられる広い視野と、日本語教育に関する問題を科学的に追究することのできる専門的知識を身につけた人材を養成することを目的とする。

そのために、日本語および日本語教育に関する研究機関である当国立国語研究所の特性を活かし、研修生が国立国語研究所の実施する日本語教育に関するプロジェクトに参加することを通して、日本語教育研究のための知識や手法を実践的に学びつつ、教育の改善への新たな視点を獲得する機会を提供する。

2. 期間

平成15年1月23日～平成15年10月16日

3. 研修概要

【研修テーマおよび趣旨】

「日本語教育の環境とリソース利用に関する調査研究」

日本語教育の多様化が進み、日本語教師はさまざまなタイプの学習者に対応することが求められている。学習者を取り巻く社会に目を向け、どのような環境で日本語学習がなされているかを知ること、また個々の学習の場面では学習者および教師がどのような日本語学習のための素材や情報等を利用しているのかを探ることによって、多様な日本語教育の実態を明らかにしていこうとする調査研究プロジェクトである。

【研修活動】

コース参加者は、国立国語研究所の設定・実施する特定の日本語教育研究プロジェクトに参加する形で、プロジェクトテ

マに関する調査を各参加者の設定した範囲で実施し、調査研究を進める。

調査研究を進めるにあたって、定期的に国立国語研究所で会合を持ち、活動に必要な理論的背景や研究手法についての講義や演習を行う。そして、会合での検討をもとに、コース参加者各自が調査を実施し、その結果を再び持ち寄って報告や検討を行う。

4. 対象および定員

原則として、日本語教育に関する実務に携わる者を対象とする。定員10名

5. 応募資格

以下の項目を全て満たすこと

(ア) 原則として、日本語教育に関する職務に関わった経験を有すること

(イ) コース参加期間に、学習リソースに関する調査を行うための調査協力者（日本語学習者、教師、学習者と接触する人々などで、被調査者となってくれる人）を得ることができること

(ウ) 国立国語研究所のコース担当者、他の参加者との連絡あるいは討議等に電子メールが使えること

(エ) 本コースでの活動経過および成果に関する資料が、国立国語研究所の行う教師教育研究の基礎資料となることを了解すること

6. 募集

平成14年11月18日より募集案内の配布とWebページによる募集を開始した。配布先は関東・甲信・東海地方を中心に、全国の大学、日本語教育機関等、計337機関である。

応募書類受付：平成14年12月9日（月）必着

7. 選考

応募者数：13名

第一次選考（書類および事前課題）：

平成14年12月10日（火）

合格者数：10名

第一次結果通知：平成14年12月10日（火）

第2次選考（事前課題に基づくグループ活動）：平成14年12月12日（木）

合格者数：10名

最終結果通知 平成14年12月20日（金）

8. 研修経過および成果

【全体の経過】

1月23日 開講式，オリエンテーション，
研究所の学習リソース調査概要説明

1月30日 学習リソース調査について（国内調査の概要説明）

調査研究のモラルについて

予備調査計画の検討1

2月6日 講義1 「データ収集の技法 — 質問紙法と調査的面接法—」
鈴木淳子先生（東北大学）

2月20日 講義2 「データとどう向き合うか — 教室談話研究を例に—」

藤江康彦先生（お茶の水女子大学）

3月6日 講義3 「エスノグラフィーの手法」柴山真琴先生（鎌倉女子大学）

3月20日 予備調査報告・調査計画再検討

4月17日 調査計画の検討

5月15日 同上

6月19日 中間報告

7月17日 中間報告

7月24日 勉強会

「学習者と学習環境の相互作用」

浜田麻里先生（大阪大学）

8月21日 中間報告

9月18日 分析とまとめの検討

10月16日 成果報告会，修了式

【修了レポート題目】

今井靖子「ホームステイにおける家族の役割 — 家族のリソースとしての機能—」

石塚美枝「留学生の小学校における国際理解教育活動参加を通じた学び — 自文化の再認識のためのリソースとして—」

江原理恵「就学生の日本語学校外での会話における日本語使用に関する調査」

大澤理子「日本語学習者・養成講座受講生間の会話における人的リソース利用」

小島美智子「中上級学習者の教室外におけるリソース利用の実際」

斎藤智美「韓国人学習者の教室外リソースとの接触 — 接触の見かけ上の少なさについて—」

坂本ひろみ「日本語学習者の教室外学習リソースとの接触」

福富七重「外国人児童は児童館の中で何を学んでいるか — 相互交渉とリソースの使用」

村上まさみ「日本語学習者の学習歴から見る学習リソースの捉えられ方 — 語られた学習歴の再解釈を試みる—」

以上，9名修了

【成果発表会】平成16年3月28日（日）

国立国語研究所において研修成果に基づく学習リソースに関する研究会を開催。

（記：石井）